

2003年4月15日

会社名 株式会社 大丸  
 コード番号 8 2 3 4  
 代表者名 取締役社長 奥田 務

## 2003年3月度 大丸 連結営業報告

### 1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	3 月 度	
	売上高対前年増減率	3 月 累 計 対前年増減率
百貨店業	8.4	-
スーパーマーケット業	1.9	-
卸 売 業	7.0	-
その他事業	4.7	-
連結合計	5.5	-

注、売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

### 2. 百貨店業 売上高概況

#### 1) 3月度 店舗別売上高対前年増減率(%)

	3 月 度		3 月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	3.6	1.9	-	-
梅田店	6.1	1.7	-	-
東京店	2.2	0.5	-	-
京都店	8.7	4.6	-	-
山科店	4.0	-	-	-
神戸店	1.8	1.8	-	-
新長田店	6.4	-	-	-
須磨店	5.8	-	-	-
芦屋店	5.2	-	-	-
札幌店	-	-	-	-
直営10店舗計	10.7	-	-	-
〃 除く札幌店	0.9	0.5	-	-
博多大丸	1.1	-	-	-
下関大丸	1.4	4.4	-	-
高知大丸	2.1	2.4	-	-
今治大丸	1.6	12.4	-	-
百貨店業合計	8.4(0.4)	-	-	-

(注)・博多大丸は本年3月より長崎大丸と合併したため、対前年増減率は長崎大丸分を含む。

・直営店の入店客数合計伸率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸の5店計である。

・百貨店合計売上高の( )内数値は、除く札幌店の対前年増減率。

#### 2) 札幌店(単位:百万円、千人)

	3 月 度		3 月 累 計	
	合計	入店客数	合計	入店客数
実 績	4,226	3,329	-	-

(売上動向)

- ・北海道最大級の百貨店として注目を集め、入店客数は予想を大きく超え、330万人強となった。
- ・売上高は42億円強で、目標としていた40億円を超え、順調なスタートとなった。
- ・一部のブランドショップでは、全国でトップクラスの売上を記録したが、婦人服・婦人雑貨は、気温が上昇しなかったことによる春物の苦戦など、全国的な売上動向を反映した厳しい結果となった。
- ・一方で、食品を筆頭に紳士服飾・リビングなどは好調に推移した。

3) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	3 月 度		3 月 累 計	
	合計	除く札幌店	合計	除く札幌店
紳士服・洋品	12.1	2.5	-	-
婦人服・洋品	9.0	2.7	-	-
子供服・洋品	6.5	0.8	-	-
その他の衣料品	10.8	4.7	-	-
衣料品計	9.4	1.4	-	-
身の回り品	3.5	8.2	-	-
家具	4.3	4.2	-	-
家電	8.2	8.2	-	-
その他の家庭用品	11.9	4.5	-	-
家庭用品計	9.4	2.3	-	-
食料品	19.7	4.7	-	-
食堂・喫茶	32.0	0.7	-	-
雑貨	5.3	1.7	-	-
サービス	34.2	29.6	-	-
その他	3.2	5.3	-	-
合計	10.7	0.9	-	-

3. 概況

1) 百貨店業

- ・百貨店業全体の売上高は、札幌店のオープン(3/6)のため対前年8.4%増となったが、既存店ベースでは、対前年0.4%の微減となった。
- ・中旬までは低温・天候不順から春物衣料の動きが鈍かった。下旬に入って回復の兆候が見られたが、それまでの落ち込みをカバーするには至らなかった。
- ・京都店は、前年に改装工事による売場閉鎖及び1日間の休業があり、その反動で対前年8.7%増。
- ・高知大丸は、昨年末の高知西武閉店(12月25日)で、市内唯一の百貨店となり、入店客数が増加(対前年2.4%増)し、売上高も対前年2.1%増となった。

2) その他

- ・スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、対前年1.9%減であった。14年度の増収店舗数は4店舗であったが、3月は12店舗となり、底打ちから回復の兆しが出てきた。
- ・卸売業の大丸興業において売上高が7.0%減と落ち込んでいるのは、低収益取引を縮小しているためである。

お問い合わせ先

株式会社 大丸 グループ本社 広報・IR推進部

TEL 06-6281-9002

FAX 06-6245-1343